八ッ場ダム 建設中止の影響は

新良守克議員（志政会）

◆狭山市のかかわりと影響について

①ダム完成まで5年という時点での建設中止発言は県民を困惑させているが、特に利水面での市民の影響と現況において安定供給は可能なのか　②ダム建設に伴い、いくら負担金を拠出しているのか　③1都5県の知事はダム建設の存続を強く要望しているが、市長の見解は

市長　③八ッ場ダムは集水面積が広く開発水量が多いため、渇水リスクを軽減させ水を安定的に供給するダムとして期待されていることから、推進すべき立場で臨んでいる。

上下水道部長　①市は県営水道の供給を受けており、間接的に影響を受ける。ダムの完成で県に付与される水利権は、市の安定給水に大きく寄与すると考える。　②県との協定に基づき、昭和55年度を初年度とする6カ年で累計1億2773万円を支出した。

八ッ場ダム建設工事の再開を

◆救急情報システムについて

高齢者や障害者が暮らす世帯が増えている中で、万一に備え、本人の救急医療に関する情報を記載後、保管して緊急時に対処するシステムが全国的に普及されているが、狭山市では対応をどのように考えているのか。

保健担当部長　急病などで救急搬送が想定されることから、救急隊が搬送先の病院を選定する上で役立つ救急情報を、高齢者や障害者の各家庭で備えておくことは有効なことと認識している。今後、救急情報システムの実施方法や実施時期について研究していく。

◆学社融合教育について

学社融合したBLS教育（ベーシック・ライフ・サポート）では、単に救命処置に対する対処の技術を教えるだけでなく、生命の尊厳と市民の義務などの道徳を教えることを目的しているが、狭山市は学校教育の道徳授業と社会教育での救命講習会を融合した教育活動は行えるのか。

市長　一人でも多くの市民が救命措置のすべを身につけておくことは、何事にもかえがたい命を守るために、大変意義のあることである。

消防長　多くの中学生が受講し、貴い命を救うことの大切さを学ぶことができるよう、学校や関係機関と連携を図り、さやま救急ボランティアの協力を得て引き続き取り組んでいきたい。

学校教育部長　夏休みなどを利用し、中学校の部活動を中心に、さらに広め、進められるよう関係機関と調整していく。

一般質問

高齢者福祉の充実を

加賀谷勉議員（公明党）

◆在宅生活の安全確保について

高齢化の進む中、いかにしたら高齢者世帯・ひとり暮らしの高齢者の安全を確保するか、いろいろな角度からの安心を担保する必要があると考えるが所見は。具体的に緊急通報サービスの拡充、救急医療情報キットの導入、住宅用火災警報器設置の推進についての見解は。

市長　自助・共助・公助が相互に機能し、生活のさまざまな角度から支える環境づくりを推進し、安全確保に努めたい。

保健担当部長　緊急通報サービスは、ひとり暮らし高齢者等総合支援事業の中で、対象の拡大など関係機関の意見も聞き検討していく。救急医療情報キットは、有効な情報として活用されることも考えられるので、実施方法、時期などを研究していく。住宅用火災報知器は、引き続き制度の周知に努める。

◆外出などの支援について

市内循環バス「茶の花号」見直しに伴うデマンド交通システムの導入と現状での見直しの状況はどうか。高齢者の方々の外出目的は、病院へ通うことが多いので、そうした視点を持って見直しを検討するのか。

市民部長　デマンド交通システムは、運行管理システムや車両購入費などの経費増加が見込まれ、デメリットが多いと考える。要望のある茶の花号の毎日運行や通勤通学者の足の確保、乗降調査での団地を経由する地区は利用率が高い状況などを考慮し、コース変更など見直しを行っていく。

◆予防医療の推進について

狭山市としても国の判断を待つまでもなく、高齢者に対する肺炎球菌ワクチン接種の公費助成を行い、接種の積極的勧奨をすべきと考えるが。

保健担当部長　現在は任意の接種対応である。予防接種にかかる国のとらえ方を基本とするものであるため、その動きや各保健事業、予防事業の総体的な視点から判断をしていきたい。

◆芸術があるまちについて

文化芸術は、人々の心を豊かにします。常に身近なところで芸術にふれることができることは、まちの活性化につながると考えるが、芸術マップの作成や市内に設置してある作品を一堂に会して展示することはいかがか。

市民部長　美術品取得基金で購入した絵画などを多くの方々が鑑賞できるよう、設置場所などを記載したマップの作成を検討していく。また、身近に作品を鑑賞できる機会を提供するよう検討していく。

小・中学校の夏休み短縮を／循環バス

中川浩議員（市民21）

◆学校の夏休み短縮で授業を

高校に入学しても、授業に付いていけず、やめていく…。何とかしたい。小学校の総授業時間数は平成14年以前と比べ768時間減。算数は178時間・国語は226時間減。休みの日は家庭・地域でと言われても、親は働いている。戸田市では17年から全小・中学校で夏休みを5日間短縮し、8月25日から授業を行っている。狭山市は小・中学校10校にクーラーが設置されているが、夏休みに授業は1校も行っておらず、補習授業を実施している小学校は3年前より減っている。

学校教育部長　夏休みの短縮は、23年度からの小学校新学習指導要領による教育で、授業時間数が1～2時間増加する中で、慎重に考える必要がある。

◆マラソン大会の復活を

市では11年以降、全小学校で行っていない。中学校でも2校のみ。

学校教育部長　主な学校行事は児童生徒や地域の実態に応じて各学校で計画されている。現在も早朝ランニング、業間マラソンなども行われており、今後も各学校の創意工夫を尊重しつつ、忍耐力や持久力の向上を図っていく。

◆小学校の体育の教科担任制を

科目の中で、特に体育を教えたいと思う先生が体育を。変わりに他の授業をその科目が得意な先生が教える。

学校教育部長　小学校の教科担任制は現段階では難しいと考えるが、教科の一部では、現在でも全校で実施し、体育は2校で行っている。今後も学校の実態に合わせて進めていく。

◆公式サッカー場の整備を

市長　今後多様化するニーズに応えるため、サッカー場も含めた公式スポーツ施設の整備は、スポーツ振興くじ助成事業の活用、地元企業などの連携も視野に入れて検討すべきと考えている。

◆市内循環バスの路線の見直しは？

スーパーが無くなり、病院にも行きづらい。交通が不便な地域の高齢者などの移動手段の確保を今後どうするか。市民・バス利用者の意見募集は。

市民部長　利用者の利便性向上のため、毎日運行し、駅を中心にスーパーや病院などを結ぶコースを検討している。路線バスと重複しないコース設定や通勤通学者の足の確保なども視野に入れ、現行の市内循環バスを継続したいと考えている。今後検討を重ね、今年の8月までには見直しの結論を出すように取り組んでいく。なお、市民から意見を聞くことも今後検討していく。

利用しやすい
循環バスに見直しを！

一般質問

生活困難家庭は急増 生活保護は減

高橋ブラクソン久美子議員（無所属）

◆一クラスの家庭の四分の一が公的援助を受けている学校のある現実

①生活保護の中で母子家庭が5年間で半減している理由は。権利としての生活保護の制度をもっと知らしめてください　②ニートや生活上の困難にある青少年のために、居場所や高校入学再チャレンジ教室を産業労働センター、元気大学、教育センター、図書館などで始めてほしいのですが

福祉部長　①平成19年度に就労支援員を設置した結果、就労に結びついたこと、また、転出や結婚、子どもの就労などで廃止になったと考える。

市民部長　②産業労働センターには、若年者職業相談、キャリアカウンセラーを採用して、若者サポートステーションを創設する計画がある。

総合政策部長　②（仮称）狭山元気大学は目的にそぐわず、難しいと考える。

学校教育部長　②教育センターの教育相談で実施している、地域の居場所づくりなどの状況で研究していきたい。

生涯学習部長　②図書館は、ニートや生活上の困難にある青少年のための居場所づくりに、学習室や資料の提供で利用できると考える。また、狭山地域職業相談室などと連携し、就職などに関する図書リストや図書館の利用案内を設けている。

◆学校図書館は小学校の古く傷んだ本と中学校の低い利用率が問題です

①学校図書館の管理にコンピューターを入れたらどうですか　②図書館指導員さんが、せめて週に3回ほど学校に来られるようにしてほしいのですが　③入間川の北部に図書館を立ててほしいのですが

生涯学習部長　①蔵書のバーコード化が必要であり、今後の課題として研究していきたい。　③単独の分館整備は行えない状況にある。公共施設の再編などを検討する中で、複合施設として研究していく。

学校教育部長　②図書館指導員は5名いるが、後期基本計画などに位置づけ、増員できるよう努力していきたい。

◆予算の成立過程の透明化と市民参画

予算の成立までの過程をホームページなどで公開し、パブリックコメントを受け付けてはいかがか。

総合政策部長　予算査定の経過や理由など正確に伝えるには限界があることから、議決後の当初予算を図表や重点事業などを交えて、公式ホームページや広報紙で施政方針とともに公表している。